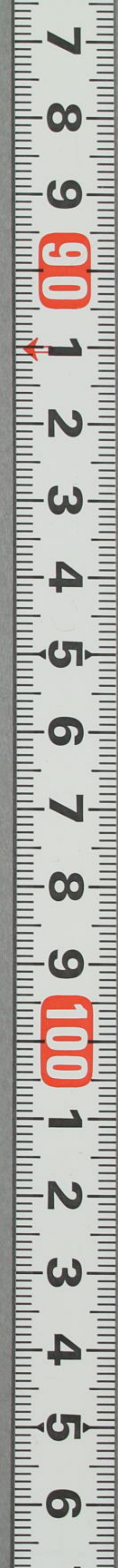


田舎源氏 年七

13
3742
37



仙鶴堂藏板目錄

字寶節用千金藏

源氏百人一首宝文庫

御家 正流 子供案文

柳亭隨筆

還魂紙料

初編既刻

二編近刻

田舎源氏文集のたのしみ
 廿八編目録書よりとりて編ぶ
 中へ所収略とそとの風俗の多岐
 ありの年々もさきれいふ
 おき中の所引用の上

大全書状案文

女用文章色紙沈染

小繪

種彦の書

昔 火焚

全二冊

同 浦島

全三冊

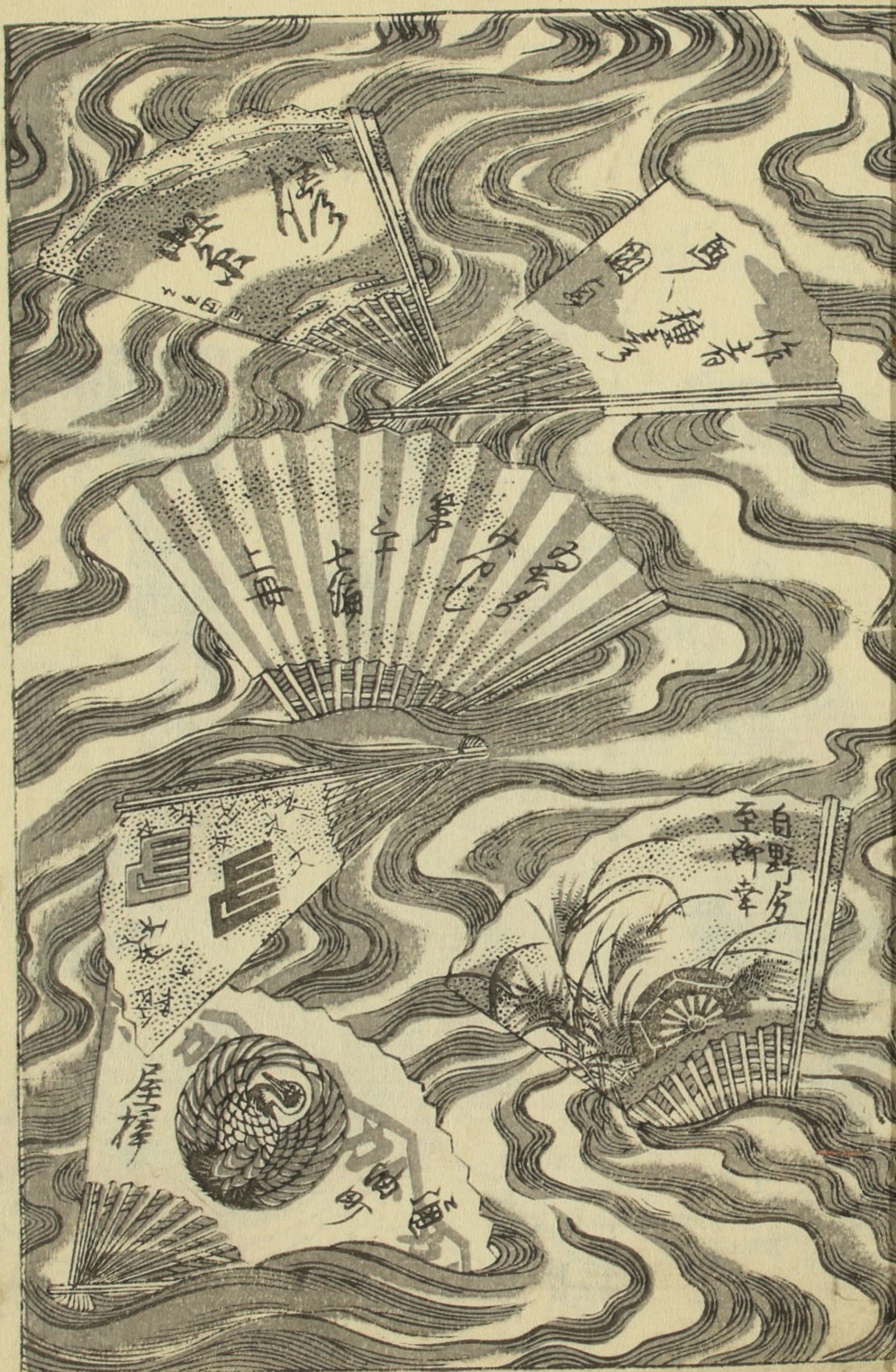
茶番のいろは

全二冊

昔 楠判官

全三冊

地本類東錦繪問丸御摺物所鶴屋喜右衛門



三十七編上

信長作
田原女



信長

田原

女

三十七編下



女
信長

門へ13
3742
37

田舎

源氏第三十七編

下冊

種彦作

仙鶴
堂
壽梓



行幸

國貞画

あまのこりしむ
さむくしをさむ
ひめりやんは
かしのりやを物
しうさじ



初午の鰯魚 鯛成をさす。節分の赤鯛。鯉をのぎ笑ふ。吹草祭やふ
加色赤のへき衣るければ後の月が家草の下座おそそ着るべし。是は寺の
類の時と節く自然お得る執力いそ常の位おかそを。これを思ふ大晦の
とそ道きて松やく竹やくのせそくろき声おなると一夜明れが扇と白酒
白酒一枚繪草さじと呼の狐を心も春めく其をりふこそ拙作を見
あの人もまればあるらぬ。是初午の鰯魚を書籍の鯛おまるとる女時。それを
近年彫る揃へは兼さく頃から春の新板。おそれいふかこれとる。様ご散
ても書買出ま。さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
まむの二月の菰は送賣あの人更ふるく。作者も七月毛纏の色揚の請その也
頼人のさのやうふれりるる節分さの赤鯛歯さきり嘴でも田作よふあよ
たる廢物とるるべし

柳亭種彦記

源氏第三十七編



松あり
けふあり
はなあり
らん

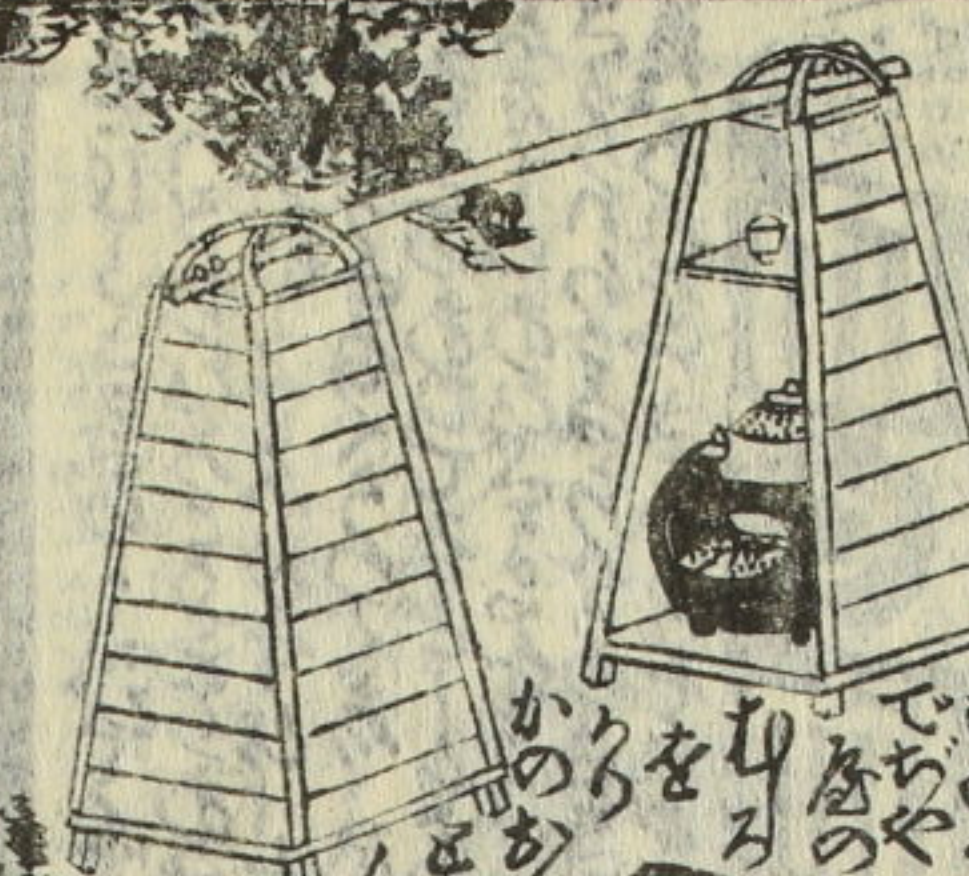


冷泉院より
足利義植公

あふさき
よのの
うま
きどろ
あふさ
あふさ
あふさ
あふさ

あふさき
あふさき

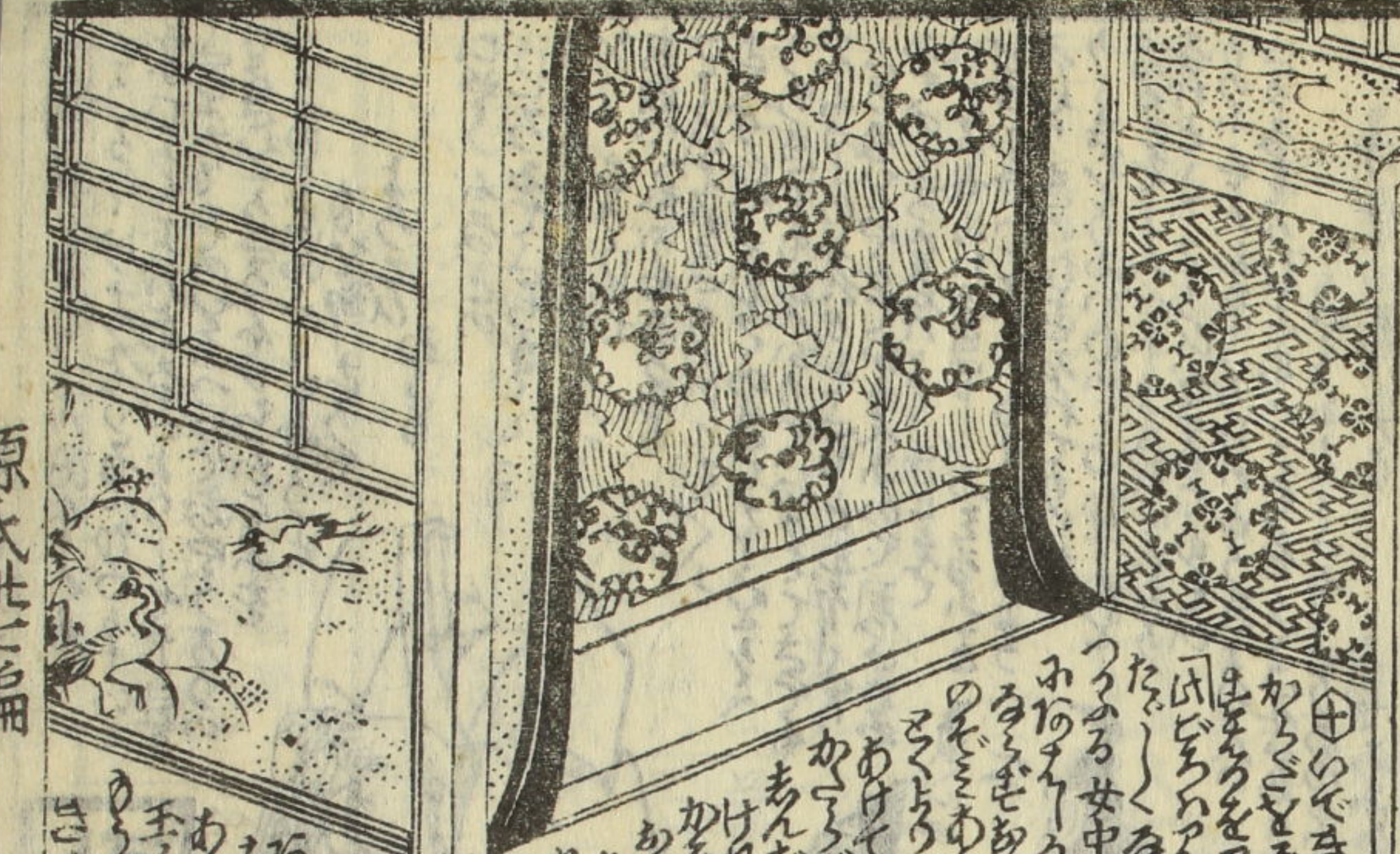
ついでに... 源氏物語の一場面を描いた挿絵。背景には山や木々があり、人物は和服を着て座敷に集まっている。中央には扇を手にした女性がおり、周囲には他の人物が会話している様子。



中... 源氏物語の一場面を描いた挿絵。三人の女性が和服を着て立っており、会話している様子。背景には山や木々があり、人物は和服を着て座敷に集まっている。中央には扇を手にした女性がおり、周囲には他の人物が会話している様子。



源氏物語の一場面を描いた挿絵。背景には山や木々があり、人物は和服を着て座敷に集まっている。中央には扇を手にした女性がおり、周囲には他の人物が会話している様子。



〇まことのこころ
 かのうとくまのけいさく
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに



〇まことのこころ
 かのうとくまのけいさく
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに



〇まことのこころ
 かのうとくまのけいさく
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに

〇まことのこころ
 かのうとくまのけいさく
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに
 ままをまへにまへにまへに
 けいさくをまへにまへにまへに

